

東葉高速線地域公共交通活性化・再生総合事業

事業期間
21～23年度

東葉高速鉄道沿線の住民、企業等を対象として、多様なニーズやターゲットに適応した利用促進策の展開による沿線地域のモビリティツールとしての維持・確保を図りながら、東葉高速線の自立・活性化を目指す。

【東葉高速鉄道活性化協議会】

千葉県、船橋市、八千代市、東葉高速鉄道株式会社、
(以下オブザーバー)

国土交通省関東運輸局、国土交通省関東運輸局千葉運輸支局、東京地下鉄株式会社

事業の概要(22年度)

※数字は事業費

①ダイヤ改正に伴う配布用時刻表作成**1,948千円**

②コンコース行先表示器の設置**38,433千円**



③車両基地見学会開催**2,815千円**

④東葉サマーコンサート開催**1,657千円**

⑤ゆめ半島千葉国体開催記念事業**4,031千円**

⑥東葉東京メトロパス販売促進事業**3,633千円**

⑦企画乗車券発売事業**923千円**

⑧モビリティマネジメント推進事業**300千円**



- ①の沿線の観光施設を掲載した時刻表は、東葉高速線各駅(西船橋駅を除く)及び公共施設等で配布した。
- ②の沿線のイベント情報等を掲載できる行先表示器は、飯山満駅・八千代緑が丘駅・八千代中央駅に設置した。
- ③の車両基地見学会は、八千代緑が丘駅付近にある車両基地で開催した。
- ④の沿線の中学生・高校生の演奏による東葉サマーコンサートは、八千代緑が丘駅南側駅前広場で開催した。
- ⑤の国体記念事業は、ウォークを東海神駅～船橋日大前駅間で開催し、ラッピング車両を東葉高速線及び東京メトロ東西線内で走らせた。
- ⑥の東葉東京メトロパス販売促進事業は、東京メトロとタイアップして東葉高速線各駅(西船橋駅を除く)でメトロパスキャンペーンのPRを実施した。
- ⑦の沿線の観光施設である京成バラ園とタイアップして作成した企画乗車券(東葉ローズチケット)は、東葉高速線各駅(西船橋駅・八千代緑が丘駅を除く)で発売した。
- ⑧のモビリティマネジメント推進事業で作成したリーフレットは、公共施設や沿線のショッピングセンター、個人宅等に配布した。

22年度 導入への プロセス

東葉高速線は典型的な通勤路線であり、昼間時間帯や土休日の利用促進が課題となっている。また、沿線には有名な観光施設が少ないことから地域資源の認知度向上を図ることも課題となっている。そのようなことから平成22年度は、地域資源の情報提供やイベントの開催、企画乗車券の発売等を行い、地域の活性化及び東葉高速線の利用促進を図った。

潜在需要の掘り起こし

- ・ダイヤ改正に伴う配布用時刻表作成
- ・コンコース行先表示器の設置
- ・モビリティマネジメント推進事業

イベントの開催による利用促進

- ・車両基地見学会開催
- ・東葉サマーコンサート開催
- ・ゆめ半島千葉国体開催記念事業

企画乗車券の発売による利用促進

- ・東葉東京メトロパス販売促進事業
- ・企画乗車券発売事業

22年度 事業の 効果

潜在需要の掘り起こし

- ・ダイヤ改正に伴う配布用時刻表作成
アンケートを実施した結果、回答者の68.2%の方が時刻表に掲載してある沿線の見どころに行ってみたいと回答した。
- ・コンコース行先表示器の設置
平成23年3月に設置後、6月末までに4件のイベント等の情報を掲出した。そのうち1件のイベント会場でアンケートを実施し、回答者の11.5%の方が行先表示器を見て来場した。
- ・モビリティマネジメント推進事業
モビリティマネジメント推進事業で作成したリーフレット内容に関するアンケートを実施した結果、回答者の52.2%の方が東葉高速線を利用したいと回答した。

イベントの開催による利用促進

- ・車両基地見学会開催
来場者数は4,500名。地元の企業等が19団体出店し、物品を販売することにより、地域の活性化に寄与することが出来た。
- ・東葉サマーコンサート開催
来場者数は2日間で4,000名。出演団体は沿線の中学校・高校の10団体に上り、地域を巻き込んだ開催となった。
- ・ゆめ半島千葉国体開催記念事業
沿線にある国体会場へ東葉高速線の利用を促すPR活動を行った結果、国体期間中の定期外の乗降人員が前年の同期間と比べ、8,537名増加した。

企画乗車券の発売による利用促進

- ・東葉東京メトロパス販売促進事業
東京メトロとタイアップして、東葉高速線の往復乗車券と東京メトロ全線の1日乗車券をセットにした東葉東京メトロパスのキャンペーンを実施した結果、期間中で10,964枚を売り上げた。
- ・企画乗車券発売事業
沿線の観光施設の京成バラ園とタイアップして、東葉高速線の往復乗車券と京成バラ園の入園券をセットにしたものを発売し、336セットを売り上げた。

さらなる東葉高速線の利用促進及び地域の活性化を図る

東葉高速線は、平成23年4月27日に開業15周年を迎え、それを記念して開業15周年記念事業を実施する。日頃の感謝を表すとともに、東葉高速線により一層の親しみを持っていただくことを目的に駅からウォークの開催やラッピング車両の運行、写真展等を実施し、さらなる東葉高速線の利用促進を図る。

コンコースの行先表示器は、現在8駅中3駅のみを設置しているが、平成23年度中にさらに3駅に追加し、お客様の利便性向上を図る。合わせて、沿線のイベント情報等を掲出し、地域の活性化及び東葉高速線の利用促進を図る。

次年度 以降